



川内萩ホール

会 報

東北大学教育学部
同窓会仙台支部



教育学研究科・ 教育学部の現状と課題

教育学研究科長・教育学部長 本郷 一夫

平成24年4月より、教育学研究科長・教育学部長を務めることになりました本郷一夫です。皆様、よろしくお願いいたします。

現在、教育学研究科では、昨年度から取り組んでいる2つの事業をより発展させる取り組みを行っています。1つは、「アジア共同学位開発プロジェクト」(A J P : Asia Joint-degree Project)です。このプロジェクトでは、東アジアの教育課題に対応できる教育的指導者の養成をするために共同学位プログラムを開発することを目指しています。今年8月末には、日本・中国・韓国・台湾の大学院生が共に学ぶ8日間の英語によるサマーコースを開発しました。このサマーコースを通じて、日本人学生の英語力だけでなくコミュニケーション能力を向上させていく必要性を感じました。この点については、同窓会の支援をいただいている大学院生の海外学会発表事業を今後、より積極的に活用させていただきたいと考えています。

もう1つの取り組みは、昨年11月に東日本大震災で親を亡くした子どもさんへの心理的な支援を行うことを目的として設立した「震災子ども支援室」の取り組みです。現在、電話相談、被災地の里親サロンへの参加、震災に関わる専門職に対する心理的支援などを行っています。今後、同窓会仙台支部の会員の皆様とも連携して、支援を継続

していきたいと考えています。

一方、東日本大震災における復興財源確保のための国家公務員の給与臨時特例にともなって、平成24年6月から職員の給与が平均7.8%削減されました。また、先に述べたアジア共同学位プロジェクトの予算も年々減らされています。財政的にはこのように厳しい状況にありますが、「ワールドクラスへの飛躍」「東北復興の先導」に向けて、これらの歩みを止めることなく、積極的に取り組んでいきたいと考えています。どうか今後とも、同窓会の皆様の協力とご支援をよろしくお願いいたします。(2012.9.18)

平成24年度 総会のご案内

平成24年度の東北大学教育学部同窓会仙台支部の総会を下記のとおり行います。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

記

1. 日 時 平成24年11月18日(日) 午後1時
2. 会 場 ホテルJALシティ仙台 2階
(アエルの西側)
3. 内 容 ①総 会
②講 話 講師 中島信博様
「地域社会から見たスポーツ」
③懇 親 会 (会費5,000円)

最近思うこと

支部長 渡邊 宣隆 (39年入学)

昨年11月、阿部前支部長の後を受け、新しく支部長に就任いたしました。多くの諸先輩方がいる中で、また、歴代の支部長が残された足跡を見るにつけ支部長を担うだけの実績があるかと迷いました。しかし諸先輩に育てて頂いた者として、この際、恩を返す覚悟でこの重責を果たしたいと考え、支部長職をお引き受けしました。今後、役員の皆様・会員の皆様のご支援を頂きながら支部運営を進めていきたいと思っております。

さて、昨年の東日本大震災から1年半が過ぎても被災地での復興の槌音が一向に響いてまいりません。震災地にはガレキの処理、住宅移転など多くの課題があります。昨年は復旧の年、今年は復興の年と位置付け復興予算がつけられましたが、順調に進んでいるとは到底思えません。この予算は痛みを伴う所得税等の増税等によって立てられています。国会の状況変化を見るにつけ「国家を護り国民の生命財産を守るのが政治家」という言葉はどこへ行ったのかと嘆くばかりです。そんな不平不満を言っている自分が恥ずかしくなるほど明るく一途一心に復興に向けて汗水を垂らして頑張っている被災された方々の姿を目の当たりにし、幸福とは何か考えさせられています。作家の故三浦綾子さんは24歳から肺結核、脊椎カリエスを患い闘病生活を送り、快方に向かい結婚し小説「氷点」を発表したその後も襲いかかる難病、それだけで絶望し人生を呪っても不思議ではありません。しかし、三浦さんは常に明るくユーモアに溢れていたといいます。「誰の人生にも絶望的な状況はある。だが、心が受け入れない限り絶望はない。同様に、だれの人生にも不幸な状況はある。しかし心が受け入れない限り不幸はない」と言った人がいます。

幸福な人生をどう生きるか。被災された方々の必死に生活している姿に接し考えさせられました。

事務局長就任にあたって

副支部長 軍司 啓 (39年入学)

本支部の事務局長を元支部長(関口さん)が担当しているという変則的な運営を余儀なくされてきました。この度の渡邊支部長さんの就任にあたり、正常化されることと思っております。

渡邊支部長さんを中心に在仙の39年度卒業生が話し合いを持ち、新体制の確立を考えました。しかし、新事務局長予定者が、スタート直前に親の介護で会津と仙台を行き来することになりました。そこで再度、話し合いを行い、当面軍司が事務局長を兼務することになりました。

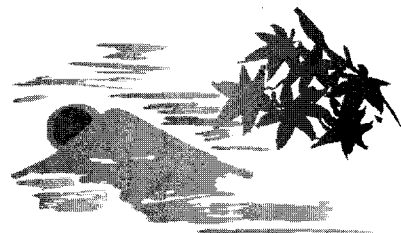
実際に事務局長を引き受けてみると歴代の事務局長さんの大変さを実感させられました。幸い、39年度入学の在仙の結束は固いものがありますので、同期の方々の協力をいただきながら取り組んでいきたいと思っています。

まだ、スタートしたばかりでいろいろとご迷惑をお掛けしますがよろしくご指導ください。

引き受けてから、勤務先の都合で、「利府おおぞら幼稚園」の園長を兼務することになり、午前中は幼稚園、午後は五橋の東北外語観光専門学校という勤務状況になりましたが、幼稚園児の笑顔と元気に励まされながら楽しい日々を送っています。

来年3月末で、一切の仕事から離れ、お世話になった地域への恩返しのためボランティアに勤めたいと考えています。私は現在体調もいいので、地域ボランティアを生きがいとして頑張ろうと思っています。地域ボランティアをされている先輩諸氏のご助言をいただけたら幸いです。

最後になりますが教育学部同窓会仙台支部の輪が広がるよう皆様のご協力をお願いします。



日本百名山を巡って

— 願えば叶う、岳友に支えられて —

竹澤 鍊太郎 (32年入学)

はじめに

昨年11月の支部総会で、貴重なお時間を頂戴して、山行の一端をお話しする機会を与えていただきました。個人的な趣味のことでと躊躇いがありましたが、逃げ隠れ出来ず、教育学部で購入したばかりというポインターを使用させていただき組の上に乗りました。当日を含めて、お世話になりました三橋亮一先生、関口隆先生に心からお礼申し上げます。

半世紀もの時の流れ

一昨年8月26日午前8時25分、黒部五郎岳の山頂に立ち、深田久弥の“日本百名山”のゴールとした。初任地川崎中学校の夏山登山で蔵王刈田・熊野岳に登ったのが昭和36年7月24日だったので、実に半世紀に近い49年もの月日が流れての達成でした。

百名山の暖簾とバッチ

平成15年、40座目の大菩薩嶺に登った折に麓の売店で日本百名山の暖簾を目にし、記念に求めたことが、深田久弥の“日本百名山”を強く意識する切っ掛けになった。それ以降、登るたびに求めた山のバッチを、その暖簾の山名の下に付けて満足感を覚えるようになり、50座、60座と山の数が増えるにつれて、徐々に自分にも百座やれるので

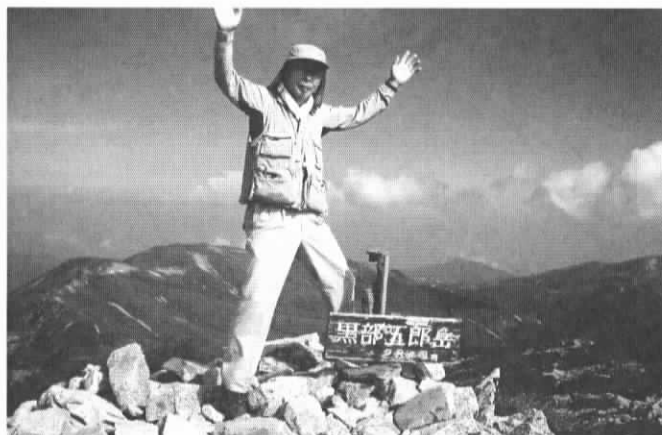
はないか、やりたいという思いが、登頂達成の願いに変わっていった。

岳友に支えられて

話が前後しますが、平成7年秋に浅野宏氏が親方として主宰する山岳会早池峰クラブに加入。山行のたびに教えられ、励まされてきたことが、その思いを持ち続ける原動力になっていたと思う。遠征のたびに繰り返された経費節減“夜討ち朝駆け”の山行は、ハードなものであったが、それを乗り越えられたのもクラブの岳友たちの暖かい心と妻の理解に支えられた結果で、感謝あるのみ。

耐えたその先に待っているもの

炎天下山小屋四泊目に熱で山岳診療所にお世話になった烏帽子岳から槍ヶ岳への裏銀座縦走、北穂高岳から涸沢岳を経て奥穂高岳まで緊張連続の縦走、登山口から往復十五時間も費やした残雪期の平ヶ岳、突然の雷に鹿島槍ヶ岳山頂から冷池山荘までの全力疾走、強風でゴンドラが不通になり連絡船の時刻に間に合うようにと駆け下りた大雪山、高山病で食欲不振になった立山から剣岳への山行などなど、出逢ったコマクサ、ライチョウ、ブロッケンの妖怪、露天風呂と生ビールの味とともに、思い出は尽きません。ご静聴に感謝!



黒部五郎岳頂上

富士山剣ヶ峰(3,776m)



平成23年度 仙台支部事業報告

第1回支部役員会
23年5月13日(日)
会場 アエル6階
9時30分から11時30分

報告事項 平成22年度仙台支部事業報告・会計決算報告について
協議事項 ①平成22年度仙台支部事業報告並びに会計決算報告の承認について
②平成23年度支部事業計画案並びに会計予算案について
③平成23年度仙台支部第32回総会・講演会・懇親会原案等について
④「会報第15号」発行構想原案について
⑤役員・年度理事改選並びに後補充について

顧問会
23年7月27日(木)
会場 アエル6階
第2回支部役員会
23年8月28日(日)
会場 アエル6階
9時30分から11時30分

協議事項 平成23年度第32回支部総会講師推薦・役員改選並びに年度理事補充等
平成23年度仙台支部仙台支部32回総会運営について
①平成23年度記念講演講師報告
②平成23年度第32回総会・講演会・懇親会の役割分担について
③平成23年度仙台支部第3回役員会日程等について
その他「会報第15号発行」 総会案内状発送事務協力依頼

第32回仙台支部総会
23年11月20日(日)
会場ホテルJALシティ仙台
第3回支部役員会
24年1月8日(日)
会場ホテルJALシティ仙台

総演懇内 **演題** 講師 32年度入学会員 竹澤錬太郎様
「山、未知は魅力一願えば叶う、岳友に支えられて」
内容 ①第32回支部総会会計報告
②平成23年度事業報告・会計中間報告
③平成24年度総会日程等協議

(平成24年3月31日)

平成23年度 東北大学教育学部同窓会仙台支部 会計決算

1. 収入の部

(△ 比較減 単位;円)

	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
会費	390,000	479,120	89,120	383名
繰越金	970,638	970,638	0	
雑収入	362	50,037	49,675	利子等
合計	1,361,000	1,499,795	138,795	

2. 支出の部

(△ 比較減 単位;円)

事務局費	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
印刷費	50,000	9,646	△ 40,354	封筒・はがき等
消耗品費	25,000	12,845	△ 12,155	用紙・PCインク等
備品費	3,000	0	△ 3,000	文具類
事務手当	25,000	25,000	0	5,000円×5人
雑費	3,000	1,240	△ 1,760	振込料・印字代
会費振込手数料	45,000	36,920	△ 8,080	会費振込手数料
会議費	40,000	48,600	8,600	役員会他
通信連絡費	200,000	109,110	△ 90,890	総会案内状等
会報費	45,000	38,000	△ 7,000	
印刷費	35,000	28,000	△ 7,000	会報第15号印刷費
会議費	10,000	10,000	0	会議費
総会費	65,000	35,000	△ 30,000	
会場費	20,000	5,000	△ 15,000	会場使用料
表示関係費	15,000	10,000	△ 5,000	演題・看板等
装飾費	5,000	0	△ 5,000	
講演会費	25,000	20,000	△ 5,000	講師謝礼・お車代
慶弔費	10,000	8,121	△ 1,879	弔電
雑費	5,000	0	△ 5,000	
予備費	845,000	0	△ 845,000	支援金・旅費等
合計	1,361,000	324,482	△ 1,036,518	

収入金額 1,499,795円
支出金額 324,482円
差引残高 1,175,313円(次年度へ繰り越します)

会 計 監 査

平成23年度東北大学教育学部同窓会仙台支部会計決算にあたり、通帳・会計出納簿・領収証を点検したところ、整備が完全でありますことを報告いたします。
平成24年3月31日

監事 笹田 博 通
監事 荒木 聰 恵

平成24年度 仙台支部事業報告

第1回支部役員会
24年5月5日(日)
会場 アエル6階
9時30分から11時30分

報告事項 平成23年度仙台支部事業報告・会計決算報告について
協議事項 ①平成23年度仙台支部事業報告並びに会計決算報告の承認について
②平成24年度支部事業計画案並びに会計予算案について
③平成24年度仙台支部第33回総会・講演会・懇親会原案等について
④「会報第16号」発行構想原案について
⑤役員・年度理事改選並びに後補充について

顧問会
24年7月13日(金)
第2回支部役員会
24年8月26日(日)
会場 アエル6階
9時30分から11時30分

協議事項 平成24年度第33回支部総会講師推薦・役員改選並びに年度理事補充等

第33回仙台支部総会
24年11月18日(日)
会場ホテルJALシティ仙台

協議事項 平成24年度仙台支部仙台支部32回総会運営について
①平成24年度記念講演講師報告
②平成24年度第33回総会・講演会・懇親会の役割分担について
③平成24年度仙台支部第3回役員会日程等について
その他「会報第16号発行」 総会案内状発送事務協力依頼
総演題懇親会内容 講師 東北大学教育学部教授 中島信博様(成人継続教育論講座スポーツ文化論「地域社会から見たスポーツ」)

第3回支部役員会
25年1月6日(日)
会場ホテルJALシティ仙台

①第33回支部総会会計報告
②平成24年度事業報告・会計中間報告
③平成25年度総会日程等協議

(平成24年4月1日)

平成24年度 東北大学教育学部同窓会仙台支部 会計予算(案)

I 一般会計

1. 収入の部

(△ 前年度比較減 単位;円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
会費	390,000	390,000	0	390名
繰越金	970,638	1,175,313	増 204,675	
雑収入	362	997	増 635	利子等
合計	1,361,000	1,566,310	205,310	

2. 支出の部

(△ 前年度比較減 単位;円)

事務局費	前年度予算額	本年度予算額	比較	備考
印刷費	50,000	80,000	30,000	封筒・はがき等
消耗品費	25,000	25,000	0	用紙・PCインク等
備品費	3,000	3,000	0	文具類
事務手当	25,000	25,000	0	5,000円×5人
雑費	3,000	3,000	0	振込料・印字代
会費振込手数料	45,000	45,000	0	会費振込手数料
会議費	40,000	50,000	10,000	役員会他
通信連絡費	200,000	200,000	0	総会案内状等
会報費	45,000	60,000	15,000	
印刷費	35,000	50,000	15,000	会報第16号印刷費
会議費	10,000	10,000	0	会議費
総会費	65,000	65,000	0	
会場費	20,000	20,000	0	会場使用料
表示関係費	15,000	10,000	△ 5,000	演題・看板等
装飾費	5,000	5,000	0	
講演会費	25,000	30,000	5,000	講師謝礼・お車代
慶弔費	10,000	10,000	0	弔電
雑費	5,000	5,000	0	
予備費	845,000	295,310	△ 549,690	旅費等
運用基金	0	700,000	700,000	
合計	1,361,000	1,566,310	214,000	

II 運用基金

収入金額 700,000円(一般会計より)
支出金額 0円
差引残高 700,000円

国際学会に参加して

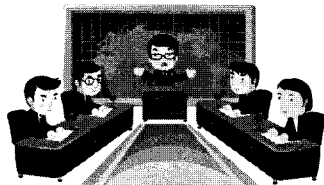
東北大学大学院教育学研究科博士課程後期
進藤 将敏 (H23年入学)

私は2012年7月8日から12日の期間に、カナダのエドモントンにおいて開催された国際学会“International Society for the Study of Behavioural Development:ISSBD 2012”に参加し、研究発表を行ってきました。

私は大会3日目に、“Young Children’s Drawings from a Planning Perspective: A Developmental Study”という題目でポスター発表を行いました。これは、幼児期における描画発達に関する研究です。従来の研究では、描画表現が年齢と共に発達的に変化して行くといった現象は捉えられてきたのですが、なぜそのような現象が起こるのかといったメカニズムについては明らかにされていませんでした。私の研究はその解明に寄与する研究として位置付けられています。このような研究を今後突き進めることによって、子どもがどのような認知能力を発揮して絵を描けるようになるのか、あるいは絵を描く過程の中でどのようなことを意識しながら描けるようになるのかといった、子どもの描画の構成能力の発達に関する正しい見方や評価に貢献するものと思われま

す。実際、私の研究に対して関心を示して下さった方々もおり、関連分野の研究者とも非常に有意義な交流を持つことができました。そして、そのような方々との議論を通じて、自分の研究の位置付けを再認識したばかりか、今後の研究の進行や方向性を定める上での貴重な経験になったと思

います。最後に、このような経験は、日頃から研究指導を頂いている先生方、そして本学研究科の海外発表渡航費援助事業による支援によって得ることができました。ここに改めて感謝の意を表します。有り難うございました。



国際的な研究と交流

斉藤仁一朗 (H18年入学)

私は、東北大学教育学部同窓会仙台支部の海外学会渡航費援助事業の支えのもと、米国で国際発表を行う機会を頂きました。

発表は、平成23年12月に米国のワシントンDCで開催された米国最大の社会系教科の学会「National Council for the Social Studies」において行いました。発表題目は、「グローバル時代におけるシティズンシップ教育の考察——20世紀初頭の視点から——」というものです。その際、20世紀初頭のアメリカの教育で見られる「コミュニティ」という概念とシティズンシップ教育の関係を分析し、その理論の現代への適用可能性を論じました。これらの考察から得られた最終的な結論は、グローバル時代のシティズンシップ教育を論じる場合、子どもたちの日々の生活と、グローバル、国家、地域、などの多様なコミュニティの問題との相互関連性を強調した学習をするべきだということです。また、これらのシティズンシップ教育の捉え方は、近年だけでなく20世紀初頭の米国に既に見られるため、歴史的な視点から論じる必要があると指摘しました。

研究発表の場では、米国研究者を含む、韓国、シンガポールなどの多様な国々の研究者とも議論ができました。また、この大会参加を通して、今年度の11月に米国ワシントン州シアトルで開催される同学会の大会において、米国研究者と共同発表することが決まりました。このような学会発表を通して、国際的な研究に向けた交流が行えたと考えます。

改めまして、東北大学教育学部同窓会仙台支部の渡航費援助事業に心から感謝いたします。

斉藤仁一朗
東北大学大学院教育学研究科
総合教育科学専攻 教授学習科学研究コース
博士課程後期1年
日本学術振興会特別研究員

自分の時間割

朴沢 徳昭 (39年入学)

「自分の時間割」を作ろう。これは、各学期の終業式の日、校長先生からのお願いとして、子供たちに話をしていた三つの約束の一つです。三つの約束とは、①自分の時間割を作って、規則正しい生活をおくろうね。②毎日、何でもいいから家のお手伝いをしようね。③健康や事故に気をつけて、自分の身体を大切にしようね。考えてみると、この三つの約束は今の私にもあてはまることです。そこで、子供に返ったつもりで、これからの生活のためにも、私なりにこの三つの約束を実行してみることにしました。

- ① 自分の時間割——時間割を作るためには、それなりの活動の予定が必要になります。特にこれといった趣味はないのですが、歌うことが好きなので、2つの合唱団に入りました。これで一週間のうち2日は予定ができました。それから、仙台市で行っている豊齢学園に応募したところ、運よく入学でき、これでまた1日ふさがりました。それに加えて、近くにあるスポーツジムに通ったり、家庭菜園や友人との交流、また孫の世話等で、何とか1日ボーッとすることがないような時間割を作ることができました。
- ② お手伝い——今は家内と2人きりの生活です。奥さんの足手まといにはならないように、たまには、簡単な食事を作ったり、掃除とか洗濯とか自分にもできることは進んでやろうとする気持ちを持つようにしました。
- ③ 健康と事故——せっかく自由になった身に大切なのは、何といても健康です。偏りのない食事、適度な運動、定期的な検診、安全運転等に留意した生活を心がけるようにして生活しています。

こんな現況ですが、自由な生活が送れるようになったのに、何かに縛られていないと不安な自分に驚いています。

生涯発達の半ばを過ぎて

東北大学大学院教育学研究科発達心理学分野
准教授 神谷 哲司 (H2年入学)

大学に入学したら青年心理学をやりたいと考えていた。E.H.エリクソンの自我同一性の概念に代表されるように、青年期において自己を形成し、「おとなになる」ことがどのようなことを考えたいと思っていたのである。それはまさに、自分自身がその「青年期」におり、シュプランガーの言う「疾風怒濤」のただなかにいるという認識の中での興味関心であった。大学院に進学したこともあり、恐ろしく長い「青年期」を過ごしてしまったが、そうした時期を東北大学で過ごし、級友と親交を深めたことは今でも自分自身の「青年観」に大きな影響を及ぼしているように思える。

研究の興味関心は、大学で学ぶ中で、人は生まれてから死ぬまで生涯発達するという「生涯発達」の考え方を知ること、成人期移行の問題へと移り、現在に至るまで、親・夫婦の育児期移行の問題や保育者のキャリアに関する研究を続けている。その根底にある、「おとなになる」ことの問題意識は学生のころから変わってはいないが、自分自身「青年」ではなく、とうに「おっさん」になってしまい、いよいよ人生80年のターニングポイントを折り返すこととなった。

縁あって母校に戻り、改めて「青年」の問題を考えるようになったが、この20年という時代は恐ろしく社会を変えてしまい、同時に「青年」のあり方も変えてしまったようである。少なくとも、自分の若い頃の感覚では太刀打ちできない「現代的な問題」が今の青年たちにはあるように思える。

奇しくも、私の同期の有志数名がこの初秋に同窓会を企画してくれている。私自身、「おっさん」になってしまった自分を抱えつつ、同じく、「おっさん」「おばさん」になった同期とともに、自分たちの青年期がどんなものであったか、次の世代を考えるためにも、語り合いたいと思っている。

関東地区同窓会の歩みと この頃思うこと

会長 星 永揚 (教育社会'66年卒)

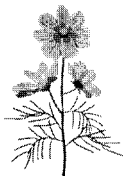
仙台支部の皆様には、平素から関東地区同窓会の活動にご指導・ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

私共の同窓会は、平成元年7月、東京学士会館に江川亮初代会長(心理'55年卒)を中心に107名の同窓生が結集し設立されました。爾来24年に亘り、越河六郎(心理'57年卒)・家根敏明(社会'57年卒)・笹川智恵子(哲学'69年卒)の各氏が会長を務められ、会員諸氏との協力のもと関東地区在住同窓生の交流の場として継承・発展してまいりました。

現在、名簿登載の会員数は496名、それぞれ関東地区の多方面で活躍されています。会の主な活動は、2年に一度の会報「きょうかん」の発行、総会・懇親会開催を通しての同窓生の連帯強化です。6年前からは、中間年度に会員の近況報告を中心とした臨時増刊号を発行し、相互の情報交換とコミュニケーション強化に努めております。

目下の課題は会員の拡大であり、中でも若手層の発掘が喫緊です。これは他同窓会で見られる傾向ですが、関東地区も会員の高齢化に反比例して若手の加入率低下が顕著です。仙台支部も同様の悩みを抱えていると伺っております。今後、若手会員の勧誘と現役学生への啓蒙のため、同窓会本部と仙台支部同窓会との連携活動が一層必要と考えます。卒業学生への仙台支部・関東支部の会報配布によるPRも有効と思えますし、全学同窓会「萩友会」の活用も図っていききたいものです。関東支部では、次期(平成24年11月)から若手会員の発掘を重要課題と位置づけ積極的に取り組む計画でおります。これまたお力添えの程よろしく願いいたします。

結びに、仙台支部同窓会の一層のご発展と会員の皆様のご健勝を心からお祈りいたします。



東北大学教育学部同窓会 仙台支部役員名簿

【顧問】	本郷一夫(研究科長)	
佐々木一洋(26)	雪江美久(31)	永野昌一(28)
關口 隆(37)	岡崎 忠(36)	阿部琢也(36)
【支部長】	渡邊宣隆(39)	
【副支部長】	軍司 啓(39)	吉川邦彦(50)
【参 与】	岩淵昌次郎(24)	富塚英雄(24)
石森幸子(29)	柘澤 怜(31)	佐々木亀三男(32)
佐藤健仁(33)	伊藤 昭(35)	大浪榮一(39)
【元研究科長(参与)】	菅井邦明	菊池武烈
荒井克弘	細川 徹	宮腰英一
【年度理事】	佐藤 弘(24)	高橋公正(25)
静田 一(25)	池田和夫(26)	青木敏浩(27)
佐藤陽二(27)	小關幸生(28)	桂島新一(28)
市川 宏(29)	千葉俊男(30)	今野 健(31)
渡邊健夫(31)	佐々木邦視(31)	煤田泰蔵(32)
村上重作(32)	竹澤鍊太郎(32)	金岡昭房(33)
山形美也子(33)	工藤忠久(34)	泉 豊(35)
岡本幸子(35)	正木 競(36)	賀屋義郎(37)
中川典夫(37)	文屋 優(38)	文屋國昭(38)
朴澤徳昭(39)	太田將勝(39)	大竹牧夫(39)
吉野信武(40)	安住 裕(41)	櫻田 博(48)
別府成裕(50)	日下 毅(51)	佐藤邦宏(51)
白澤利広(52)	南城一之(54)	川上芳夫(57)
吉植庄栄(H4)		
【監 事】	荒木聰恵(37)	笹田博通(48)
【大学理事】	八鍬友広(贈)	神谷哲司(既)
【事務局長】	軍司 啓(39)	
【会則検討委員会】	柘澤 怜(31)	今野 健(31)
静田 一(25)	桂島新一(28)	
【名簿作成委員会】		
金岡昭房(33)	泉 豊(35)	高橋公正(25)
【会報発行委員会】	青木敏浩(27)	佐々木亀三男(32)
池田和夫(28)	渡邊健夫(31)	
【会計委員会】	石森幸子(29)	朴澤徳昭(39)
岡本幸子(35)	佐藤勝子(37)	

◎会報16号をお届けいたします。ご多用の中、玉稿をお寄せ頂きました方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

◎東日本大震災の後遺症は、まだまだ残っていますが、復興への足音は力強く前進しようとしております。大学の新しいプロジェクトの試みは科学の進歩や教育の発展に役立つものと思います。

◎総会に出席の際は、会報をご持参ください。

事務局(連絡先)

〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-7-18

軍司 啓 TEL 080-1689-4838

※カットは柘澤 怜氏(31年入学)